かほく市立宇ノ気中学校

２年学年だより Climber

2019 年 12 月 2 日
校　　長　山本　桂一
学年主任　福島　栄一
第 8 号

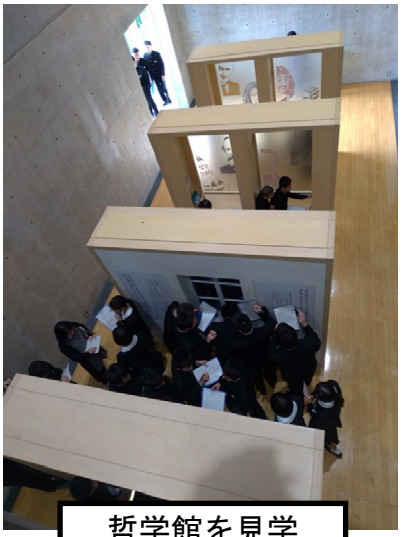
２学期もいよいよ大詰めです。運動会や学校祭をはじめとするたくさんの行事を通し、個人もクラスも大きく成長できたようです。寒くなってきた季節だからこそ気を引き締めて、２学期を、そして今年１年を良い形で締めくくりましょう。

哲学を学びました

11 月は哲学を学ぶ機会が多くありました。かほく市の中学校３校の２年生が行っている共通道徳の取り組みです。

12 日には、全員で西田幾多郎記念哲学館に行きました。哲学館内の見学では、西田幾多郎の眼鏡や勲章、掛け軸や哲学者同士の対話の様子などを、クイズを解きながら見学し、地元が生んだ偉人について知りました。その後の講義では、「哲学＝考えること」であると学びました。

20 日、哲学館から学校に講師をお招きし、全員で哲学に触れてもらう授業「哲学対話」を行いました。「先輩は偉いのか」など、身近な疑問をスタートに、クラスの仲間と深く考えました。

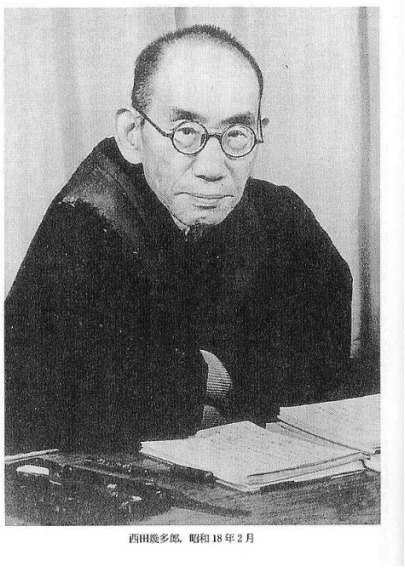


哲学館を見学

哲学対話

道徳　ー　哲学者　西田幾多郎先生　ー

　西田幾多郎は日本を代表する哲学者です。明治３年４月１９日、現在の石川県かほく市森に生まれた。若い頃は肉親の死や学歴での差別、妻との１度目の離縁などの多くの苦境を味わった。その経験を乗り越え、思索にふけることとなっていった。その思索の結晶が西田哲学となり、現在では、日本の哲学者の第一人者としての西田幾多郎を創り上げている。


西田幾多郎、昭和18年2月

【生徒の学びのワークシートより】

西田幾多郎って、どんな人？どんな言葉が心に残った？

〇「人は人　吾は吾なり　とにかく吾行く道を吾はゆくなり」
〇お父さんが宇ノ気小学校の校長先生だった。
〇本が好き、猫を飼っていた。
〇「哲学の始まりは悲哀でなくてはならない」
〇「形なきものの形を見、声なきものの声を聞く」

立志に向けて

　中学二年生は「立志」を迎えます。昔は、数え年での１５歳（満年齢１４歳）になると、大人の仲間入りとされました。現代でもこの年を「立志」として、一つの節目としています。
　かほく市では、令和２年１月３１日に立志式が行われます。これを機会に、これまで以上に自分の進む道を考え、「小学生に近い中学生」から「高校生や社会人に近い中学生」へと成長していきましょう。

今後の予定（詳細は、授業実施予定表をご確認ください）

２日（月）全校集会
３日（火）県評価問題（国、数）
４日（水）通知表私渡し案内配布
　　保護者アンケート締め切り
５日（木）漢字テスト
６日（金）人権についての学級討議
１０日（火）２年　薬物乱用防止教室
１２日（木）英単語テスト
１８日（水）～２０（金）　通知表渡し
２１日（土）　かほく市３中学校合同
　　ボランティア
　　（イオンで募金活動します）
２２日（日）　JRC 独居老人宅訪問
２４日（火）　２学期終業式

令和２年
１月８日（水）　始業式
　９日（木）　冬休み明け実力テスト
１０日（金）　百人一首大会
１６日（木）　漢字テスト